2 伝統を踏まえた邦楽公演の新しい見せ方

邦楽が多くの人々にとって無縁となりつつあり生活の日常から和楽器の音が絶えて久しくなっています。その理由は明治以来の邦楽教育の縮小，メディアへの露出後退および支援関係者の減少などにあると言われます。では西洋音楽に比べて邦楽はそれほどに取上げる価値が乏しい分野なのでしょうか。いえ決してそんなことはありません。先人の感性が生み出したおびただしい作品群や作曲家の生涯を少したどればその音楽に込められた我が国固有の音楽芸術の輝きを容易に見出すことができます。ただし音楽を単に目的もなしに並べただけでは人々の興味を喚起させることはできません。それには仕掛けが必要です。私は長きにわたり紀尾井ホールにおいて邦楽公演の企画を実行してきました。邦楽公演に何が欠けているのか，どうすれば邦楽への関心を取り戻すことができるのかを考えてきました。そこでこれまでやってきたことをこのハンドブックの場を借りてご紹介することにいたしました。これにより多少なりとも皆様の今後の企画のご参考になればうれしく思います。

1 邦楽の「見せ方」とは

邦楽を知らない方に長唄，義太夫，常磐津，清元，新内などといっても一体何のことか分らないでしょう。そのジャンル名や出演者を並べただけの公演ではそれがどんなものかを想像することすらできずチケットは売れません。人々に興味を持っていただくには「見せ方」が必要です。それはどんなものなのでしょうか。以下にその手がかりとなる項目を述べてみましょう。

①「誰でも分る」テーマを設定すること

一つの公演にはそれを貫く分かり易いテーマが必要です。そこにイメージがふくらみます。

②テーマの中に複数ジャンルの演奏を組み入れること

「祭」といえば，長唄（神田祭），義太夫（夏祭浪花鑑），常磐津（勢獅子），清元（三社祭），など沢山の作品があります。これをうまく組み合わせ，一つの演奏会に取上げることでその違いを理解することができるようになります。

③理解を深めるため可能な限り解説を施すこと

単なる解説ではなく，スライドを使ったり，演奏者が舞台でデモンストレーションしたりすることなどを通じて邦楽への親近感が醸成されます。

④一回限りではなく複数回のシリーズ化した公演とすること

印象が継続しテーマが深化されることで理解が一層促進されます。

2 具体的事例

それでは「見せ方」の意味を念頭に置いた上で，紀尾井ホールでは何をやってきたのか，公演実績からテーマや公演数などの事例を見てみましょう。

①名作，名場面，技を取上げる

【江戸邦楽の風景】

テーマ：江戸の風景が喚起した邦楽の調べとは

公演数：2010 年～10 年間で 20 公演

- 深川，吉原などの風景のみならず衣裳，歴史的事件も含め多彩な視点で解説
- テーマに関する複数ジャンルの名曲を紹介

【邦楽華麗なる技】

テーマ：邦楽にも華麗なテクニックがあるのだ

公演数：2011 年～11 年間で 15 公演

- 退屈で分らない，と思われがちな邦楽演奏の常識を打ち破る公演
- 邦楽の華やかで技に満ちた演奏を鑑賞

滝流し（勧進帳），チンチリレン（京鹿子娘道成寺）……

②人物像を描く

【江戸邦楽の巨匠たち】

テーマ：江戸時代の優れた作曲家と作品の系譜

公演数：2007 年～　4 年間で 12 公演

- 江戸時代には日本音楽を作った優れた作曲家がいた
- 竹本義太夫，都一中，十寸見（ますみ）河東，宮古路豊後掾，鶴賀若狭掾，清元延寿太夫，杵屋正治郎，岸澤式佐，杵屋六左衛門

【江戸演劇に生きた人々】

テーマ：錦絵をもとに初期の歌舞伎舞踊を再現

公演数：2012 年　2 公演

- 「遊女歌舞伎」の創作舞踊　ほか

③慣習の打破

【女流義太夫の新たな世界】

テーマ：女流義太夫と人形との 50 年ぶりの共演

公演数：2008 年～　3 公演

- 人形浄瑠璃に女性は同座できない慣習を打破
- 関係者の意識改革に寄与

【みちのく紀行】

テーマ：流派を超えた編成の実現

公演数：2015 年～　3 公演

- 長唄三味線，箏，尺八，囃子の 30 人編成
- 被災地支援（現地演奏家とともに）

④古典作品の新たな創造

【近松復曲三夜】

テーマ：近松の失われてしまった曲の復曲

公演数：2009～　3 年間 3 公演

- 物語（詞章）は残っているが当時の曲は失われていた作品に新しい曲を附し上演
- 人形が一人遣いであった当時の上演方式も再現

⑤邦楽を主題とする演劇の創造

【邦楽ドラマ】

テーマ：邦楽生音と俳優で演ずる新作芝居上演

公演数：2008 年～　8 年間で 5 演目 合計 27 公演

- 芸道物語を題材として新たに脚本を起こし，俳優の芝居と邦楽の生音によるドラマを上演
- 「高橋竹山物語」6 公演　栗塚旭，二代目竹山
  「松廼家おけい」6 公演　十朱幸代
  「浪花女」6 公演　佐久間良子
  「竹本綾之助物語」4 公演　山本陽子
  「歌行燈」5 公演　紺野美沙子，瀬川菊之丞，坂井音晴

⑥邦楽詞章作家の育成

【紀尾井邦楽塾】

テーマ：現代の人に邦楽詞章創作の機会を付与

公演数：創作 5 作品に曲を附し紀尾井で上演

- 新たな邦楽作品の創作→伝統的な形式や構成，言い回しなどの継承をはかる
- 経緯　2014 年：一般公募し 12 名を選抜
  2014 年～2015 年：平均月 3 回授業
  2017 年：紀尾井小ホールで上演
  大和楽，箏曲，地歌，一中節，義太夫

⑦国際交流

【アジア音楽のかたち】（随時）

ラオスの音楽，台湾「南管」

ベトナム「ニャーニャック」（2006 年）

パラオ「マトマトン」（2007 年）　ほか

【日韓伝統芸能の交流】（2016 年　ソウル）

演目：葛の葉子別れ　ほか

出演：韓国長唄研修生，八王子車人形，女流義太夫　ほか

【歌舞伎舞踊と浄瑠璃】（2014 年　ヨーロッパ）

公演地：ドイツ，スイス，ハンガリー，ポーランド

舞踊：中村壱太郎

義太夫：竹本千歳太夫，豊澤富助

演目：越後獅子，鷺娘，俊寛

3 公演を作るに際しての理念

公演制作には邦楽の知識が必要なのは当然ですが，「見せ方」を考えるには基本的な理念を自分の中で明確にしておくことが大事です。その理念とは次のようなものです。

①作り手，演奏家，聴衆相互の共感を獲得する視点をもつ

それぞれが自己満足に陥ることなく常に三者が感動を共有できるような公演を目指す

②思い込みや押しつけがましさを避ける

若い人には理解できない，今の人には今の音楽をなどの思い込みから離れ自由な視点を持つこと

③むやみに新しいものに媚びない

新しいものだけが一人歩きしないよう公演全体のバランスを考える

④公演テーマを掘り下げるため複数公演とする

単発では印象が希薄になるため最低 3 回は続ける。シリーズ化の中で聴衆が何を求めているかを把握

⑤プロデューサー意識の鼓舞・育成

公演プロデューサーとして常に問題意識を持ち，普段からジャンルを超えた多くのことを見聞する

→　自分の成長に対する投資

4 伝統を踏まえた創造について

今日継承されている伝統文化はそれぞれの時代の中で新たに創造されたものであることは言うまでもありません。現代における創造もその流れをくむものです。ただし新たな創造にも歴史と伝統の素材が離れがたく共存しています。民族の感性が時代を経ても現代の人に流れ込んでいるからです。古典を修得して新たな創造に向うこと，これは「見せ方」を考える場合に重要な視点となるものです。その関係を以下に述べてみましょう。

伝統とは

- 伝統とはそれぞれの時代背景から生まれたもので様々な様式を伴ってその時代を代表し，時代を超えて人々の心を打つものです。
- 現在とは過去の歴史が積み重なった今です。その足下に伝統があり我々はその上に立って未来を見ています。

古典と創造

- 古典とはすぐれた制作者によりその時代の感性のエッセンスが凝縮され創造されたものです。
- 古典とは現代における創造のヒントを見出す重要な契機となるものです。

「古典とは，僕らにとって嘗てあった作品ではない。僕らに或る規範的な性質を提供している現に眼の前にある作品である。僕らはまさに現在の要求に従って過去の作品から汲むのだ。（小林秀雄）」

- 古典や伝統を学ぶとはそこに凝縮されている感性を嗅ぎ取り，それをもとに新たな伝統を生み出すことです。そこに伝統の役割があります。
- 演奏家による古典の再生とは当時の時代様式を現代において創造的に再現することです。演じる者の数だけ創造があるのです。

5 まとめ

(1) やって来たこと

これまで紀尾井ホールで制作に従事して来た経験をもとに実例を交えながらご説明いたしました。私が考えていたことは，伝統芸能である邦楽が衰退し後継者もおぼつかない中で，いったい制作側（作り手）として何ができるのか，何を発想したらよいのか，ということでした。新しい「見せ方」としてよく話題となるのは，次のようなことです。

- 西洋のものを日本の伝統様式に当てはめること（西洋演劇を日本の伝統演劇でやるなど）
- 伝統のものに西洋様式をあてはめること（和楽器で西洋音楽を演奏するなど）

いずれも創作という視点ではそれなりの目的があります。裏を返せば能，人形浄瑠璃，歌舞伎および邦楽などといった，日本に優れた伝統があるからこそ生じる発想であるとも言えます。しかしよく考えてみると伝統として育まれ創り上げられてきたものの価値はどの国のものであろうと等しいと言えます。音楽においては，ヨーロッパ，アジア，日本音楽はそれぞれ等価です。従ってその優れた価値を持つ伝統を，価値を維持しながら融合させるのは非常に難しい試みであることを意味しています。単に並べたり読み替え演出をするの

では創作とは言えません。

すでに述べたように伝統とは我々日本人の感性のエッセンスが凝縮されたものです。そこから生まれ，長く継承されてきたものは，それ自身の姿そのものの提示の仕方を工夫することで現代にも新しい伝統を生み出すヒントや力があると考えられます。

そこで私は伝統をどうすれば興味をもって見ていただけるかに重点をおいて考え実行してまいりました。それがその場限りの話題で終ってしまわないようにシリーズ化を考えました。伝統の中にある本物の芸能には高い完成度があり人々に多くの感動を呼び起こします。それにヒントを得ながら，そこから飛び出てしまうのではなく，伝統を継承する形で新たな発見をし，新しい作品を今の時代に問うことができるのではと考えました。

それがうまく行ったかどうかは不明ですが，少なくとも公演に来場された方々には伝統とは何かという問題提起ができたものと自負しています。

(2) 伝統芸能の今

季節の移ろいの中に美しさやもののあわれを認めた先人の感性は今日まで伝承される数多くの作品を創造してきました。これらは日本独自の文化として世界的にも高く評価され国民が誇りとする財産となっています。

邦楽においては 2002 年に中学校の学習指導要領が改定され，3 学年を通じて 1 種類以上の楽器を教えることが義務付けられ，教師にも伝統的歌唱と和楽器を必修として履修することが義務付けられました。とは言え学習効果を上げるには今後なお多くの時間を要するものと見られます。

ただし邦楽界に目を向けると将来の経済的展望が成り立たないことからこの道を目指そうとする若い人材が減少し，二世三世がかろうじて継承の役割を担っているのが現状です。また演奏会の場も縮小しメディアへの露出も後退しています。さらに和楽器製造業者の数も激減しています。しかし日々の稽古に励む若い演奏家は貴重な民族の遺産を自分達の世代で絶やしてはならないとの熱い思いで一杯となっています。

(3) これから

これからの方向として付け加えておきたいのは邦楽の演奏家自らが現状を直視し改善に向けた動きを開始しようとしていることです。それには流派を超えジャンルを超えて邦楽界全体として取組み大きなうねりとなることが必要です。

それに呼応する形で今後の公演の「見せ方」を研究し，伝統芸能である邦楽が現代に，さらに次世代に大きな役割を果たすことを大胆に提示していくことがプロデューサーの使命であると思っています。邦楽界の新たな時代の到来が待たれます。

随分と固い話になってしまいましたね。それでは「見せ方」の別の例として邦楽を扱った新旧の映画をご紹介して終りとします。邦楽に親しむきっかけとなることを望んでいます。

○鶴八鶴次郎（1938 年　監督：成瀬巳喜男）
- 主演：山田五十鈴，長谷川一夫
- 新内節の芸道物語

○舞妓はレディ（2014 年　監督：周防正行）
- 主演：上白石萌音，長谷川博巳
- 舞妓修行のマイフェアレディ

【参考文献】

小林秀雄の警告　適菜収 著　講談社＋α新書

（町田龍一）